

3期6年を超えて再任する役員の評価について

2025年2月4日
電力広域的運営推進機関

- 本機関の役員について、3期6年を超えて再任する場合には、
 - ① 余人をもって代えがたい場合に限定すること
 - ② その評価については、評議員会で必要な議論を行った上で、総会で議決することとしている（p3参照）。
- 本年3月末日に4期目の任期を満了する監事（非常勤）の千葉彰について、再任の議案を総会に付議するため、本評議員会にて役員の再任に当たっての評価について、ご確認いただきたい。

- 監事の千葉彰は、公認会計士として、財務、会計、ガバナンス等に関する豊富な経験や見識等を有している。
- これまで4期8年にわたって監事を務めてきたが、本機関では、足下及び2025～26年度において、
 - ① 容量市場の実需給開始に伴う容量拠出金の徴収、容量確保契約金の交付、ペナルティ徴収、年次清算等の適正な実施、長期脱炭素電源オークションや予備電源制度の円滑な運営
 - ② 広域系統整備交付金、系統設置交付金、特定系統設置交付金、貸付業務の実務開始に向けた取組
 - ③ FIT/FIP制度の見直し、積立金業務の追加、借入れや起債業務の適正な実施
 - ④ 企業会計基準に準拠した適正な会計整理、外部会計監査開始を踏まえた「三様監査」の連携など、兆円単位の多額の資金を扱う資金管理業務が複雑化する中、専門的知見を活かしつつ、本機関の運営や経緯も熟知した上で、監事の監査機能を十全に発揮することが特に強く求められる。このため、本機関の業務及び課題に精通した千葉彰を監事として再任することが不可欠と考える。
- なお、千葉監事は、毎週開催の理事会にほぼ皆勤し^{（注）}、理事会に当たり、毎回、各議案についての説明を事前に聴取した上で事務局へ必要な助言や指導等を行っているほか、監査室による事業・会計の監査その他ガバナンス事項に関するきめ細かい報告や相談に随時応じ、さらに、監査法人との意見交換も新たに行うなど、内部監査の実効性確保に一層努めてきており、監事として期待される牽制等の役割を十分に果たしていると評価できる。

（注）2024年度（12/18現在）で42回中41回出席（出席率98%）、2023年度は全51回中51回出席（出席率100%）。

アクションプラン進捗③ 人材確保・人材教育

第5回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 電力広域的運営推進機関検証WG (22/10/4) 資料4

<知識を提供する場の確保>

- ・月2回程度開催、全職員参加可能。毎回100名前後が参加し、役職や出向元などにかかわらず自由に議論。
- 主な議題は、「需給ひっ迫対応の振り返り」、「中給システムリプレイス」、「人材確保の方針について」等。

<プロパー職員の人事への係わり方>

- ・機関内で策定される要員計画を元に、人事担当とプロパー管理職を主とした採用チームが中心となり採用を実施
- ・発足間もなく人数も多くないプロパー職員の成長を支えるため、先輩プロパー職員がメンターを担当。



<マネジメントの強化>

- ・幹部役職員に対して360度評価を実施。上席が実施する業績評価時の参考とする。

<役員>

- ・任期は最長5期10年ではあるが、3期6年を超えて再任する場合は、余人をもって代えがたい場合にのみ限定。その評価については、評議員会で必要な議論を行った上で、総会で決議することとする。
- ・過去役員を経験した出向者の再任用の禁止。